
消えた感情

シューパズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消えた感情

【Nコード】

N4978I

【作者名】

シューパス

【あらすじ】

家族を皆殺しにされ感情を失った少年。

感情を追い求めて犯罪を繰り返す少年の目に何が映るか……

プロローグ（前書き）

どうも初めましてシューパズと申すものですハイ
まだまだ初心者ですががんばりたいと思います
皆様が喜べるような小説を書けたらと思います
ではどうぞ

プロローグ

何も感じない

何も思わない

自分以外が感じていることが感じれない

自分以外が思っていることが思えない

ああ、感情が消えた

ブログ（後書き）

ブログ書いてみたんですけど……どうですかね？
無駄に行間開けてインパクトを強めてみました
感想あるといいなあと思ったりしています
では

1・出会い(前書き)

はいはい始めました本編!!

もう頑張ってくださいますのでよろしくお願いします

1・出会い

僕は感情がない

僕がまだ三歳の頃、押し入り強盗が来て家族が皆殺しにされた

大家族で父と母と姉と兄と弟二人に妹二人だった

なぜ僕だけ殺されなかったか分からないけどそれをきっかけに感情をなくした

その後、叔母に引き取られることになって現在も暮らしている

感情を愛おしいと思ったこともないけどあつたら便利だとは思う

感情が無いから僕は勉強にも運動にも何一つ欠点がない

やることが楽しくも楽しくなくもないからただその作業を黙々とやるそれが幸いして何一つ不自由なく暮らしていた

今は14歳となって中学二年生となった僕はいまだ感情は戻らなかつた

感情がないゆえに困ることも増えてきたが特に何も感じない

大変と感じる感情がないから

僕は生きるためだけに頑張っているのかもしれない

僕は生の奴隷なんじゃないか……………

僕は今、放課後の時間をゆっくりと過ごしている

特にやる事がなくて少し疲れていたから

机の上に突っ伏して疲れをいやしている所に声をかけてきた人がいた

「よう海斗!!!元気にやっているか?」

僕に声をかけてきたのは享……小学生からの幼馴染
こうやっていつもいつも声をかけてくる……………
僕には感情がないのに……………感情がある人から見れば無駄なのか
もしれない

「まったくお前は元気がないな……………楽しいことはないのか？」

「そんなこと言っても無駄なことは知っているくせに」

いつも同じことを聞いてくる

僕はいつもこのタイミングで帰る

これ以上話していても無駄じゃないかと思うから

これも感情かはわからないけど

僕は玄関の下駄箱から靴を出す

そして靴を地面におろして履き、出る

今の季節は秋なので肌寒い

それがつらいとかは感じないけど

枯れ葉が落ちている歩道を歩いていつも帰る路地裏にはいる

あまり人が来なくて近いからだった

何時もどおり歩いていると電柱が目に入ったときに悲鳴が聞こえた

特に驚くわけでもなく電柱の近くをよく見ると人がいた

その人は右手にナイフを持っていて服が赤かった

ああ……………殺したんだな

僕はそれに近づいて行って通り過ぎようとした
だけど案の定犯人に気付かれた

「おおおお、おい！！お前！！！何者だ！？」

ナイフを構えられた

でも距離があるから安全

銃でもないから

「ただの中学生ですけど」

僕は冷静に答える

こんなとき感情のある人は恐怖するんだろうな……

それにしても犯人はすごくパニックになっている

背丈は僕よりも一回り高くて大きい

まともに襲われたらひとたまりもない……そうまともだったら

今の犯人は落ち着きがなくて挙動不審

今なら倒せるな……がんばれば

僕はそれを仮定しつつも犯人に詰め寄る

それと同時に殺された人の全貌と異臭が感じられた

地面にあおむけに倒れている

胸を刺されている……それが死因だろう

見たところ女性でおそらく恋愛トラブルでもあったのかな

瞳孔も開いていて顔も間抜けな感じになっている

なんだ………気分が悪くなる………

頭の底から何かが蘇るような……………

「みみみみみみみ、見られたからにははははははははは、生かしてはおけねえ！！」

犯人が僕に襲いかかってくる

頭が痛い……………

だがそんなことも言ってもらえない……………

僕は襲いかかってくる犯人をよけて背中に蹴りを入れた
犯人は体制を崩して地面に倒れる

その時、ナイフを落とした

かなり痛かったらしくうめき声をあげている
僕は犯人が落としたナイフを拾い上げた
血まみれになっており、汚かった

頭が痛い……………気分が悪い……………

ああ！！心が……………蘇るような感じ……………

死体を見たからなのか？

じゃあこの男を殺せば蘇るかも知れない！！

僕は本能のままにナイフを振り下ろした

1・出会い（後書き）

どうでしたか？

急展開が来ましたけど……

たぶん更新は遅めで行くと思います
まあともかくよろしくお願ひします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4978i/>

消えた感情

2010年10月14日14時57分発行